

26th MACS

コロキウム

2024年

7月8日(月)

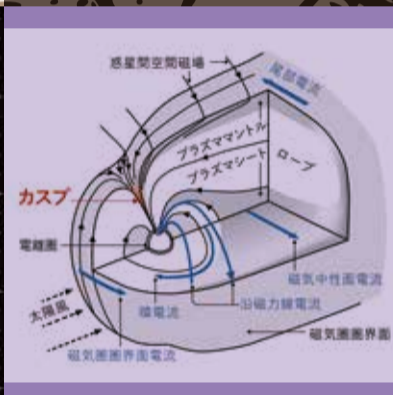
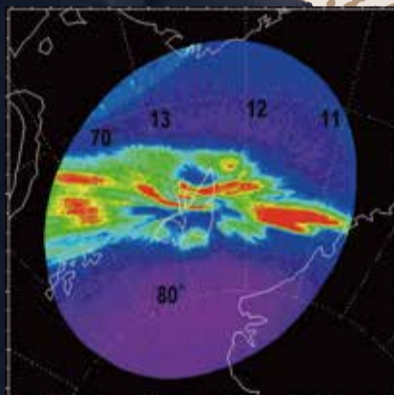
14:45~18:00

会場：理学研究科セミナーハウス
(対面のみ)



「太陽風が奥深く入ってくる場所での地球の大気とプラズマの振る舞い」

地球の周りに広がる磁場は、その形状のために、太陽からの荷電粒子の流れである太陽風を特定の道筋に沿ってたやすく地球の近くまで入り込ませている。この流入過程がきっかけとなって、電子だけが狭い範囲で地球に向かってたたき落とされたり、幾重にも重なったオーロラが激しく揺れ動いたり、また、平衡状態にあるはずの超高層大気がゆっくりと上方に持ち上げられたりしている。こういった現象を解説しながら、太陽地球系物理学という分野の研究の醍醐味も伝えたい。



田口 聡 博士

京都大学理学研究科地球惑星科学専攻 教授 兼
附属サイエンス連携探索センター センター長

「植物科学のために挑んだ学際融合」

植物は私たちの社会に食料・材料・環境を与える存在であり、その生物システムを深く探究し理解することは将来の安全な社会を実現するために重要と言える。生物科学は、生物の発揮する魅力的な仕組みや機構を次々と明らかにしており、植物の精緻で動的な姿を捉えてきた。しかし、生物学単独で研究の壁を乗り越えてきたわけではない。植物科学を突き詰めるべく、異分野の学際分野に飛び込んだ体験を研究の歩みとともに述べたいと思う。



PROGRAM

14:45~15:00
ティータイムディスカッション

15:00~16:00 講演 1
田口 聡 博士

16:15~17:15 講演 2
野田口 理孝 博士

17:15~18:00 継続討論会

野田口 理孝 博士

京都大学大学院理学研究科生物科学専攻植物学系 教授